

品川支部

令和二年6月1日発行

〒141-0022

品川区東五反田1-8-5

TEL 3442-7075

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

6月

緊急事態宣言解除

本部では五月の月次祭は、先月は無かった大教会長、教区長も登殿での祭典と言うことで三月の自粛時まで回復して勤められました。教区でも、三ヶ月ぶりに毎月行われていた全体会議を段階的に再開することになり徐々に色々な活動が始まってくる物と思われま

ほんの三ヶ月でしたが、出かけるにも不自由で皆それぞれ多くのことを考えさせられる時間でした。今までの災害と違い、こんな時には寄り添って、とか絆とかで癒やすことが出来ましたが、不要に人と会うことも帰省する事も出来ずで本当に身近にいる人の有りがたさを感じる事が出来ました。まだまだ、世界では収束に向かっているとは言えず警戒が必要な時期が続くようですが、こんな時でも陽気ぐらしを实践出来ることを示しましょう

* 尚、支部では今回のコロナ禍等、暮らしの上で困難が有れば少しでも互助出来る様工夫しておりますので、ご相談下さい

本部ライブカメラが期間限定で二台になりました
天理教ライブカメラで検索して下さい
(この時間は曇りでした)



本部神殿を真南から望む



本部神苑を西南から望む

☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

六月九日(火)午後6時

場所 都南分教会

・支部例会

緊急事態宣言の解除に伴い、今月より再開と致します

尚、今月は二頁目に詳細を乗せていますが三ツ木分教会さんが新築され、初の例会の会場となりますが、状況により変わる場合は各教会へお知らせ致します

- ・教区ひのきしん
- ・神名流し
- ・在宅センターひのきしん

支部外の活動は今月もお休みです

☆教務支庁からのお知らせ

・今後のスケジュール

緊急事態宣言の解除を受け

六月四日から主事会を八時四十五分に再開し引き続き、全体会議を行います。各支部から一人参加でマスク着用で行います。十九日の地方委員会は予定通り

基礎講座十四日「東京会場」は中止です

☆教区青年会からのお知らせ

「コロナ募金」のお願い

この度のコロナウィルス感染拡大に伴い、青年会では今できる事として東京都主催の「守ろう東京・新型コロナ対策医療支援寄付金」への協力させて頂くとの趣旨で賛同者を募るべく左記の要領を支部に送付されましたので略して掲載いたします

記

期間 八月四日まで

募集方法 「口座振り込み」

金融機関 ゆうちよ銀行

口座番号・名義

001604761375

天理教東京教区青年会

「書留郵便」の場合

「天理教東京教務支庁

コロナ募金」宛

豊島区駒込七丁目一の四

〒170-0003

(募金は寄付の際全て主事会監査を受ける事になります)

その他、教務支庁事務所前の募金箱に入れて頂いても同じ扱いとなります

拠点教会	7日号	14日号	21日号	28日号
日本橋	直送	直送	直送	直送
本 荏	直送	直送	直送	直送
都 南	直送	直送	直送	直送
三ツ木	直送	直送	直送	直送
水豊田	直送	直送	直送	直送

既にお知らせの通りコロナ対策の為、六月も手配りは全て直送とさせて頂きます

時報手配り六月予定

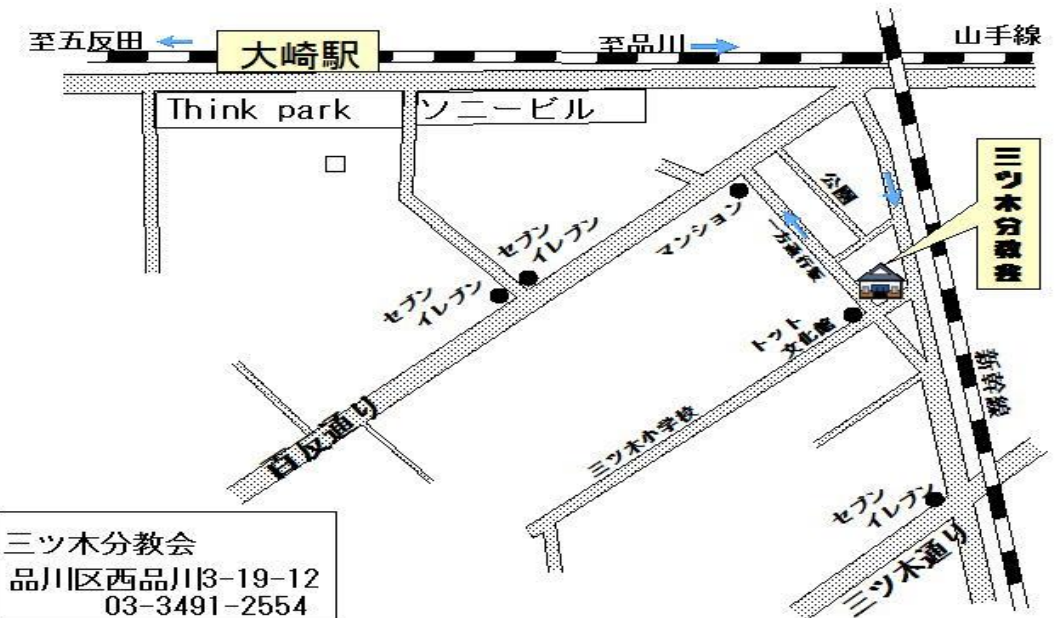
品川支部例会

令和二年六月三十日 (火) 場所 三ツ木分教会

(品川区西品川3-19-12)

内容 座りづとめ よろづよ八首 六下目 支部連絡事項 当該山中教会長挨拶 昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



青年会時代の思い出



青年会時代、今から数十年前の話になるが、青年会、女子青年会の合同総会に当時筑波大学の教授をされていた村上和雄先生に記念講演の講師をお願いするため、筑波研究学園都市の大学に行かせていただいた。

当時昭和六十年三月から九月まで「科学万博つくば85」が開催されていたが、その中で話題の一つになっていた、わずかに一粒の種から一年たらずの間に一万個以上もの実をつけた巨木を見せて頂いた。それはごく普通のトマトでもちろん種の遺伝子の組み合わせや細胞融合などの技術でもなく、このトマトは一本の根幹から何千もの枝が分かれてトマトの実が結んだ物だそうで、それが大きな金網の中に

要するにトマトが育つ環境を変えたとの事です。どうして普通のトマトはもっと実がならないのか土を使ってトマトの苗を育てようとすると苗が育てようとするのはいけないのか土を使う事が実のならない一番の原因ではないかと、いわば逆転の発想を持って、まったく新しい栽培の方法を考え出したのです。

アマゾンの流域にある巨大な大木は、根が全部河の中に浸っているのに、その根が非常に強く生長して、栄養も肥料も何もやらないのに、もう天を衝くような大きな樹木に育っている。

そのことに注目して、トマトを水の中で発芽させごくわずかな肥料と適当な温度の水を流して育てる試みをしたのです。そして、少し大きくなったたらトマトの幹を上手に支える、すると水の中の肥料を思う存分に吸収して、トマトの幹はさらに大きくなってきた。

水の中の根は土の中のような抵抗がないので、どんどん伸びていく、すると一年数ヶ月後には、トマトの幹は直径十センチから十五センチぐらいの大木になったのです。枝は差し渡しハメートルぐらいに広がり、金網に囲まれている枝は藤棚状に伸び実をつけていました。トマトにとって一番必要なものは光と水とわずかな栄養分であり、それさえ十分に好きなので、与えて幹と枝を伸ばしていれば一万三千個のトマトの実が得られるのです。

私達の人生においては、どちらかと言えば、楽しい事よりも苦しい事の方が多いものです。

時には何故自分だけこんな苦勞するかと思ふ事もあります。発想の転換、取らえ方により、それを人生の重荷と取らえるのか、あるいは神の手でくたされ能力開花の為の踏み台だと奮い立つのか、心次第です。

それを魂を磨く為の試練だと考えるならばその苦勞は自分の人間性を鍛える為の絶好のチャンスなのです。

その弛まぬプロセスに、またつましき求道に生きる目的や価値を見いだして、人間性を高め精神を修養する事が大切だと思ふのです。

本品分教会長
中澤光郎